

## 平成18年度 中小企業組合検定試験

## 問題と解答(1) 組合会計 ①

## 全国中小企業団体中央会

## ■ 科目合格者179名、合格率67.0%

平成18年度の組合会計は、申込者数364名、当日の受験者は267名で受験率73.4%、合格者は179名で、合格率67.0%となった。

昨年と比較すると、受験申込は364名と同数、受験者は268名から1名減、受験率では73.6%から0.2ポイントの減少、合格者は139名だったものが40名増となり、合格率は51.9%から15.1ポイント上昇し、申込者・受験者は同規模となったが、合格者は大幅に増加した。制度当初からの合格率を高い順に見ると、平成11年の67.4%に次ぎ5番目となっている。

なお、平成15年・16年・17年度の検定試験で組合会計に合格し、本年度受験が免除されているもので、「組合制度」「組合運営」または双方を受験したものは59名であった。

得点結果をみると、最高点は98点、最低点は8点となり、平均点は64.7点となった。平均点は平成11年の65.0点に次ぐ4番目の高成績となり、昨年の55.5点より9.2点上回っている。

得点の状況を見ると、得点率（配点に対する平均点の比率）の高かったのは第2問の間2「仕訳」の問題で、80.9%であった。また逆に得点率の低かったのは、第3問の間1の「税法」の問題で、51.6%であった。

問題別に詳しく見ると、第1問は、会計原則

の1つである「継続性の原則」に関する問題で、問1で語群の中から語句を選択し、問2では問1で完成された文章について、200字以内で論文記述する問題である。問1では満点を獲得したものが60名いる半面、零点だったものも2名いた。合格点を上回る点数を獲得したものの割合（合格点獲得率）は86.4%となった。問2では、満点を獲得したものは1名、零点だったものは32名いたが、合格点獲得率は81.3%となった。

第2問の間1は語群の中から適切な勘定科目を選択する問題で、合格点獲得率は83.8%となり、満点を獲得したものは75名、零点だったものが2名いた。問2は先に述べたとおり得点率が高く、合格点獲得率も89.8%と高かった。満点を取得したものは115名、零点だったものは11名となった。

得点率の低かった第3問の間1は正しい税法の取り扱いについて語句を記入する問題で、合格点獲得率は54.7%、満点獲得者が23名、零点が24名とほぼ同数となった。問2は、税務申告に関する問題で、合格点獲得率83.0%となり、満点が113名、零点が14名となっている。

第4問は、例年出題されている損益計算書（費用配賦表を含む）、貸借対照表を完成させる問題で、得点率59.4%、合格点獲得率は52.5%となり、満点を獲得したものは51名、零点だったものは8名となった。

## 第 1 問

中小企業等協同組会计基準に示されている継続性の原則に関して下記の(問1)及び(問2)に答えなさい。

## (問 1)

継続性の原則の次の文章中の空欄  に下記の語群の中から最も適切な語句を選んで、その語句の前にある記号を解答用紙の解答欄に記入しなさい。

組会计は、その  1  及び  2  を毎期  3  して適用し、 4  に、これを  5  してはならない。

## 〔語 群〕

- |        |        |          |        |        |
|--------|--------|----------|--------|--------|
| A. 区 分 | B. 仕 訳 | C. みだり   | D. 科 目 | E. 気まま |
| F. 常 に | G. 健 全 | H. 処理の原則 | I. かつて | J. 継 続 |
| K. 分 類 | L. 手 続 | M. 採 用   | N. 変 更 | O. 統 一 |

## (問 2)

この原則の意義を解答用紙の解答欄に200字以内で説明しなさい。

## 〔解答例〕

## 第 1 問

## (問 1)

1	2	3	4	5
H	L	J	C	N

## (問 2)

この原則は組会计の処理方法の継続を要請するものである。すなわち2つ以上の会計処理がある場合に(たとえば減価償却における定額法と定率法など)1つの方法を採用したならば、これを恣意的に変更すべきものではないという原則である。しかし、継続性の原則も正当な理由に基づくと認められる場合にはそれを財務諸表に注記する必要がある。正当な理由に基づかない場合の会計処理の変更は組会计として認めていないのである。

(以下次号に続く)

